

物語文③ 会話文とかぎかっこ

名前：

点数： / 6問

日付：

見つける → 指さす → 言いかえる → つなぐ → 書く

きょうのルール 会話文はまず「**だれが言ったか**」を確定する。「～と言った」の主語、話の順番、言葉づかいが手がり。かぎかっこには、会話のほかに**強調・引用**の使い方もある。

- ① 「行ってきます。」と、姉は玄関で元気に言った。

かぎかっこの言葉は、だれの言葉ですか。

- ② 公園で、姉と妹が話している。「もう帰ろうよ。」「あと少しだけ。」先に帰ろうと言ったのは姉だ。

「あと少しだけ。」は、だれの言葉ですか。

- ③ 弟は、（本当は少しこわいな）と思いながら、平気な顔で前に進んだ。

（ ）の中の言葉は、声に出した言葉ですか。

- ④ 「よく来たのう。ゆっくりしていくがよいぞ。」

この話し方から、話し手はどんな人物だと考えられますか。

- ⑤ 「べ、別に、ほしくなんかないよ。」と弟は言ったが、視線はずっとケーキに向いていた。

弟の本当の気持ちを答えましょう。

- ⑥ 世の中の「あたりまえ」は、時代によって変わっていく。

この文のかぎかっこの働きを選びましょう。 ア だれかの会話 イ 言葉の強調・引用

① 姉

② 妹

ポイント 名前がなくても、やり取りの順番から決められる。

③ 声に出していない、心の中の言葉。

ポイント () や心内語は、本音の置き場所。

④ (例) 年配の人 (老人)

ポイント 言葉づかいは人物の手がかり。

⑤ 本当はほしい。

ポイント 会話と行動が食いちがったら、行動が本音。

⑥ イ

おうちの方・先生へ (丸つけの窓)

2番で、名前が書かれていない発言の話者を、やり取りの順番から推理できるかを見てください。

まちがえた問題は、「きょうのルール」にもどってもう一度。自分の答えが合っているか不安なときは、答案の写真を日本国語塾TOPまでお送りください。どこが良くて、どこで失点するのかを具体的にお伝えします。(無料相談：nihonkokugojuku.com ※URLは公開時に確定)